

児童発達支援センター「かるがも園」

障害児相談支援事業「かるがも相談支援」

令和 7 年度事業報告（令和 7 年 4 月～令和 7 年 12 月）

障害児相談支援事業

相談種別

福祉サービスの利用等に関する相談	38
障害や病状の理解に関する相談	88
健康・医療に関する相談	1
保育・教育に関する相談	8
家族関係・人間関係に関する相談	7
不安解消・情緒不安	2
その他	6
合計	150

相談者

保護者	114
保育園/幼稚園教諭	0
小学校教諭	2
中学校教諭	1
高校	0
関係機関	33
その他	0
合計	150

年齢

0～2 才	34
3～5 才	25
6～11 才	62
12～14 才	20
15～17 才	6
18 才以上	0
不明	3
合計	150

障害種別

発達障害	19
知的障害	1
肢体不自由	2
重症心身障害	2
精神	0
その他	10
不明	116
合計	150

最近の傾向

<就学前児童>

- ・ 保護者の多くは、保健センターや市役所、在籍されている幼稚園や保育園からの紹介で相談に来られる方が多い。
- ・ 他市で療育を受けておられたお子さんが三田市への転入後も療育を受けたいとの相談も数件あった。
- ・ 具体的な相談内容はことばの発達がゆっくりであることを気にされての相談が多く、次に、癩癩やこだわりが強いことへの対応の仕方が知りたい、集団行動が難しい、などの内容が多い。
- ・ 保護者が発達障害で、お子さまも気になるところが似ているので、保護者と同じではないかと相談に来られることがあった。
- ・ 小児科を受診された際に医師より相談を勧められたケースがあった。
- ・ 家庭児童相談室や病院から当センターに連絡があり、療育に繋がるケースもあった。
- ・ 低年齢のお子さまは、ほとんどのケースが児童発達支援や訓練等の療育に繋がっているが、数件、保護者が療育を受けることを拒まれるケースもあった。

<小学生以上>

- ・ 担任教諭から、発達検査を進められて相談に来られるケースが多く、通常学級から通級指導教室や特別支援学級への転籍のための相談が多い。
- ・ 海外に在住されているが気になることがあるので日本に一時帰国する時に発達検査を希望される方や、外国にルーツのある生徒で、通訳の方も同席で発達相談・検査を行うケースもあった。
- ・ 保護者の中にはネットで調べて、発達障害の傾向にあると不安に感じて相談に来られるケースがある。
- ・ お子さまだけの問題ではなく、家庭に課題がある困難ケースで、特に家庭児童相談室との連携をしながら、継続的に相談に応じているケースもある。
- ・ 幼児期に療育を受けていたお子さんで、成長が見られたので一旦、療育を終了したが、小学生や中学生になり、気になる面が新たに出てきたので相談したいというケースや、乳幼児健診で療育を勧められる様子を見ていたが、小学生になり課題が明確化してきたので発達について相談したいという内容もあった。
- ・ 小学生・中学生の相談内容に不登校になっているお子さまについての相談がここ数年、多い。
- ・ 具体的な相談内容は、学習面で読み書きが苦手であるや忘れ物が多い、イライラして物や人にあたるなど感情のコントロールが難しい、友だちとのトラブルがあるという内容が多い。
- ・ 相談の時期について、長期休暇時は少なく、学校の懇談時期に多かった。
- ・ 高校生で発達検査を受けることができる場所はあるかの問い合わせがあった。

その他

- ・ 昨年度より「園庭開放」を一般の方の参加も可能にして開催している。徐々に一般参加の方が増えている。発達など気になることを相談していただける場所として対応していく。
- ・ 「発達検査を受けることができる場所を教えてほしい」というお問い合わせが多い。引き続き、発達検査を受けることができる場所が三田市内で少ないことが課題である。また、外国にルーツのある方の発達検査では通訳だけの問題ではなく、文化の違いなどがあり、発達検査自体が適切にでき判断できるかどうか今後の課題になると思われる。